

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 子どもと教師のための教育原理	共著	平成 22 年 4 月	保育出版社	<p>実践力、思考力ある教師を育成することを念頭においた教育原理である。担当箇所では、イギリス、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの教育制度、特色ある教育について紹介した。これらの教育事例を通して、学生が世界の教育に関心を抱き、様々な国の情報を自ら収集し、日本の教育を対比の上で考察する力を育むことをねらっている。</p> <p>著者：石田美清 他 18 名（含本人） 担当分担：第 6 章「グローバル化の進展と学校教育 ―世界の学校教育―」第 1 節「欧米の学校教育」 （全 202 ページ中、pp.121-126）</p>
2 プロとしての保育者論	共著	平成 23 年 2 月	保育出版社	<p>職業としての観点から保育をとらえた保育者論である。担当箇所においては、学生が自らの保育を客観的にとらえ、独自の保育について考えを深めることができるように海外の保育者と比較する機会を提示した。自立と社会性を育むフランスの「子育てと保育所」、身体と学習意欲を育むドイツの「森の幼稚園」、民主主義の精神を育むスウェーデンの「就学前学校」について紹介した。</p> <p>著者：上野恭裕 他 36 名（含本人） 担当分担：第 9 章「諸外国の保育の現状と課題」第 2 節「諸外国の保育事情から学ぶこと」 （全 194 ページ、pp.156-159）</p>
3 最新 保育原理—わかりやすく保育の本質に迫る	共著	平成 24 年 4 月	保育出版社	<p>最新情報を盛り込んだ保育原理教科書である。担当箇所では、フランス、ドイツ、アメリカ、イギリス、フィンランドの保育の現状、特に近年の保育改革とそれに伴う保育内容の変化等について説明した。幼小連携、言語活動の重視等、世界的に共通した動向があること、一方では、学校教育のような保育を行っているアメリカと、多様な環境における幼児の自由活動を重視しているフィンランドの保育等対照的な点があることを示した。</p> <p>著者：島田ミチコ他 29 名（含本人） 担当分担：第 14 章「保育の現状と課題」第 5 節「諸外国の保育の現状と課題」 （全 187 ページ中、pp.164-166）</p>

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文：学会誌) 1. チェコスロバキア高等教育におけるイデオロギー教育に関する一考察	単著	平成 13 年 4 月	日本高等教育学会編『高等教育研究』第 4 集, pp.137-156	社会主義期チェコスロバキア大学のイデオロギー教育を、全大学に設置されたマルクス・レーニン主義学科の組織・教育課程に関する実証分析を通して明らかにした。マルクス・レーニン主義学科を通じたイデオロギー統制の図式を明らかにし、さらに、マルクス・レーニン主義学科の発展を促した要因を戦後チェコスロバキアの社会状況と対ソ関係の中に見出した。
2. チェコにおける高等教育の多様化	単著	平成 13 年 11 月	日本教育制度学会編『教育制度研究』第 8 号, pp.308-313	市民革命後のチェコ高等教育改革について考察した。社会主義時代に設立された地方の専門大学が、資本主義社会・経済の需要を満たす学部を増設し、総合大学となることで資本主義化と多様化に対応していた。新総合大学は、旧専門大学が築いた産学連携の基礎を発展させ、地方産業を支える人材育成を目指し、教育課程、設備の面で魅力ある大学へと成長していることを明らかにした。
(学術論文：紀要) 1. チェコの高等教育改革と私立大学の誕生	単著	平成 16 年 3 月	民主教育教会・高等教育研究所編『IDE—現代の高等教育』NO.458, pp.55-59	チェコ高等教育 EU 化改革の中で生まれた私立大学の現状と展望について考察した。私立大学は、EU を意識した教育課程や制度を積極的に取り入れていること、企業が設置者あるいは後援団体となり、労働市場を意識した専門に特化した教育を提供している点に特徴がある。しかしながら、私立大学の質的問題がすでに指摘されており、私立大学は誰が設置するのかが問い直されている。
2. 青少年期の資質を育てる保育環境 —今日の教育病理の解決に向けて—	単著	平成 19 年 3 月	岡崎女子短期大学編『岡崎女子短期大学研究紀要』第 40 号, pp.45-54	教育病理を克服するためには、「判断力」、「他者を尊重する姿勢」を養うこと、幼児期に「自分の考えをもち表現する」経験をもたせることが重要である。スウェーデンの事例から、幼児が自発的に活動する「自然な」保育環境とは、適切な幼児構成、保育者数、保育室構成によって生じることを明らかにし、青少年の問題を抱えている日本の保育の課題は、保育環境を整備することにあるとの指摘をした。
3. ジェンダー・フリーの価値観を育成する保育	単著	平成 20 年 3 月	岡崎女子短期大学編『岡崎女子短期大学研究紀要』第 41 号, pp.61-69	保育施設における幼児のジェンダー化構造を明らかにし、ジェンダー・フリーの保育を目指す上での留意点を指摘した。保育者のジェンダー観は、生活・遊びの環境整備、保護者との対話の中に表

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
				象される。ジェンダー化された環境の中で、幼児は男／女の中に自己を位置づけ、男女の文化を対立的に把握し、男らしさ、女らしさを認識するようになる。保育者は、幼児を個として捉え、保育環境に多様性をもたせるよう留意する必要があるとの課題を提起した。
4. 旧チェコスロバキアにおける大学寮の機能に関する考察 ―救済と統制のメカニズム―	単著	平成 20 年 3 月	名古屋女子大学編『名古屋女子大学紀要』第 54 号人文・社会編、pp.1-10	社会主義大学寮は、社会主義社会・経済を支える労働者階級、農民出身学生の生活を保障するという機能を担っていた。一方、大学寮では管理運営レベル、および学生の自主活動のレベルでイデオロギー教育が組織されており、学生には社会主義思想を支持する人材となることが求められた。すなわち、大学寮には学生生活の保障（救済）機能とイデオロギー教育（統制）機能の二面的メカニズムが働いていた。
5. 幼児の運動遊びの方法と環境に関する考察 ―精神・運動機能発達の視点から―	単著	平成 21 年 3 月	名古屋女子大学編『名古屋女子大学紀要』第 55 号人文・社会編、pp.21-33	ロック、ルソー、フレーベル、倉橋に共通する「身体の強健は知と心の基礎であり、その基礎は幼児期に確立する」という思想の正当性を発達科学の視点、及びドイツ「森の幼稚園」の実践と成果から明らかにしようと試みた。身体を育むためには「遊び」がふさわしいという彼らの考えは、運動能力発達の道筋に即している。さらに「森の幼稚園」における子どもの自由な遊びが知と心の発達に及ぼした影響からも立証した。）
6. 大学における効果的な授業法の研究 4 ―初年次教育についての授業法の開発―（平成 18 年度～20 年度）	共著	平成 21 年 3 月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第 3 号、pp.1-43（担当部分第 2 章、第 3 節、pp.26-28）	初年次教育を実施するために、平成 19 年度に実施したアンケート調査から名古屋女子大学大学生の学習と生活の傾向性を把握した。担当箇所においては、アンケート結果を分析し、学生の自主学習のスタイルが確立されていないことを指摘した。その背景として以下の 3 点が明らかになった。第 1 に、学生の努力離れ、第 2 に、資格取得に焦点化したカリキュラム上の問題、第 3 に初年次教育の必要性である。初年次教育は、単に接続教育としてだけでなく、学生の視野を広げ、大学生活を豊かにする「覚醒」として必要であるとの課題を提示した。  共著者：遠山佳治、石倉瑞恵、伊藤太郎、宇野民幸、下木戸隆司、白井靖敏、竹尾利夫、谷口富士夫、原田妙子、幸順子

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
7. チェコ高等教育の国際化 1949-2009 -留学生受け入れの軌跡から-	単著	平成 22 年 3 月	名古屋女子大学編『名古屋女子大学紀要』第 56 号人文・社会編, pp.165-177	社会主義期、民主化後の 10 年、EU 化改革の 10 年について、チェコ高等教育をとり巻く国際社会変容と留学生層の変化、それに伴う高等教育転換の方向性を分析した。社会主義期の大学間交流を明らかにすると共に、民主化以降、旧専門大学が EU 化に対応すべくフレキシブルな改革を担っていること、新興私立大学における留学生の割合が高く、チェコ高等教育に大いなるインパクトを与えていることを明らかにした。
8. チェコ高等教育における 1950 年代改革の意義 -社会主義技術大学の現代的役割に着目して-	単著	平成 23 年 3 月	名古屋女子大学編『名古屋女子大学紀要』第 57 号人文・社会編, pp.185-196	社会主義技術大学の成立、発展過程、教育の特色を分析し、社会主義期に技術大学が果たした役割を明らかにした。さらに、社会主義技術大学の市民革命後の変化を追及し、現代における旧技術大学の意義を明らかにした。旧技術大学の地域的多様性、専門的多様性は、資本主義を志向する現代のチェコ高等教育拡大の基盤となっているのみならず、多様な需要をもつ留学生に対応する国際的多様性の基盤となっていることを明らかにした。社会主義技術大学を生み出した 1950 年代に、資本主義化、大衆化、国際化時代のチェコ高等教育を支える原点形作られたと考えられる。
9. チェコにおける私立大学の成立と展開	単著	平成 24 年 3 月	名古屋女子大学編『名古屋女子大学紀要』第 58 号人文・社会編, pp.165-177	チェコにおいて、私立大学が成立、定着した過程、及びその過程において生み出された私立大学の独自性について論じた。欧州高等教育圏構想と多様なパートナーは、私立大学が新しい地域と新しい専門分野における高等教育を開拓し、新しい教育環境、新しいカリキュラムやプログラムを開発することを促した。国際色豊かな教育環境やジョイント学位等のプログラムを整備して欧州的次元を実現している私立大学の事例から、チェコ大学における異質性について分析した。
10. 19 世紀チェコにおける女子高等教育の成立と女性医師の誕生 -エリシュカ・クラスノホルスカの思想と活動を中心に-	単著	平成 24 年 5 月	名古屋女子大学『総合科学研究』第 6 号, pp.4-13	チェコにおける女子ギムナジウムの創設者にして、女性に大学と医師への道を切り開いた女性指導者であるエリシュカ・クラスノホルスカに関する研究である。彼女の思想及び活動の軌跡を分析することを通して、19 世紀チェコの女性が高等教育機会と医師という専門職を勝ち得るプロセス、及びチェコ社会と女性運動にクラスノホルスカが果たした意義を明らかにした。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
11. カレル大学の発展における社会主義期の位置づけ—チェコ人のための大学という視点からの歴史の読み直し—	単著	平成 25 年 3 月	名古屋女子大学編『名古屋女子大学紀要』第 59 号人文・社会編, pp.135-147	チェコ人の大学という視点から社会主義期を再考した。中世大学としての栄華期・衰退期から社会主義期以前のチェコ文化衰退期（ハプスブルク帝国からナチス占領下）にかけて、カレル大学はドイツ文化圏の大学へと発展した。社会主義改革は、カレル大学を初めてチェコ語のみを教授言語とする大学へと再建した。また、チェコ各地に拠点を広げ、チェコ文化の担い手である地方労働者、農民に高等教育を提供する大学へと変容させたことを実証的に明らかにした。
12. 大学における効果的な授業法の研究 5 —多様な学習成果の評価方法の開発—(平成 21 年度～23 年度)	共著	平成 25 年 5 月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第 7 号, pp.1-43 (担当部分: 第 3 章, 第 3 節, pp.22-27)	「保育者・教育者論におけるポートフォリオ評価 —理論科目学習を通じた学士力の育成—」: 保育者養成課程において、理論科目の中で学士力を養うポートフォリオ学習と評価方法についての一例を提起した。同時に、理論科目への自発的、継続的、発展的学習を定着させるために、指定科目においてポートフォリオを評価する段階から、自ら学ぶ科目を選択し、学習の成果を自己評価する段階へと結びつける一連のポートフォリオ学習プログラムを構築することが課題であると指摘した。 共著者: 遠山佳治、石倉瑞恵、白井靖敏、羽澄直子、原田妙子、幸順子
(その他) 1. 新入生オリエンテーションにおける初年次教育の効果測定—大学における効果的な授業法に関する研究報告—(機関研究報告)	共著	平成 22 年 5 月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第 4 号, pp.57-60	平成 21 年度 4 月に実施された初年次教育について、文学部児童教育学科、家政学部生活環境学科、短期大学部保育学科の 3 学科を対象に行った調査結果の報告。 共著者: 遠山佳治、石倉瑞恵、伊藤太郎、宇野民幸、下木戸隆司、白井靖敏、竹尾利夫、谷口富士夫、原田妙子、幸順子 共同研究につき、担当部分抽出不可能
2. 創立者越原春子および女子教育に関する研究—19 世紀～20 世紀における女子教育の国際比較—(平成 21 年度～22 年度機関研究中間報告)	共著	平成 22 年 5 月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第 4 号, pp.61-65 (担当部分 p.62)	19 世紀から 20 世紀にかけてのアメリカ、イギリス、日本、チェコにおける女子教育への関心の高まり、女子高等教育の始まり、女性観や女性の自立意識についての比較検討を行なった。 共著者: 羽澄直子、石倉瑞恵、木原貴子、遠山佳治、依岡道子 担当分担: 「ハプスブルク帝国下チェコにおける女子高等教育の萌芽」
3. 大学における効果的な授業法の研究 5 —多様な学習成果の評価方法の開発—(機関研究中間報告)	共著	平成 22 年 5 月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第 4 号, pp.66-67	多様な学習成果が有効に評価されるための方法を探ることを目的として、ポートフォリオの可能性や主体的に学習に関わった度合いを評価する「スチューデント・エンゲージメント全国調査」(アメリカ

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
				カ) の評価指標について分析した。 共著者：遠山佳治、石倉瑞恵、下木戸隆司、白井靖敏、原田妙子、宮原悟、幸順子 共同研究につき、担当部分抽出不可能
4. 創立者越原春子および女子教育に関する研究（平成21年度～22年度機関研究中間報告）	共著	平成23年5月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第5号、pp.25-31（担当部分pp.27-28）	「チェコにおける最初の女性医師アナ・バイエロヴァの19世紀女性運動へのインパクト」：19世紀アメリカ、イギリス、日本、チェコにおける最初の女性医師の生涯を比較することを通して、女性運動における女性医師の位置付け、女性観や女性の自立意識にもたらした影響力等について検討した。 共著者：羽澄直子、石倉瑞恵、木原貴子、遠山佳治、依岡道子
5. 大学における効果的な授業法の研究5—多様な学習成果の評価方法の開発—（機関研究中間報告）	共著	平成23年5月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第5号、pp.32-33	大学における多様な評価方法の開発を検討し、教育改善を推進するために、実際にいられている成績評価の現状について調査分析した。 共著者：遠山佳治、石倉瑞恵、白井靖敏、羽澄直子、原田妙子、幸順子 共同研究につき、担当部分抽出不可能
6. 創立者越原春子および女子教育に関する研究（平成23年度～平成24年度機関研究中間報告）	共著	平成24年5月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第6号、pp.53-58（担当部分p.58）	「チェコ女性運動における女性政治家カルラ・マーホヴァの意義」：19世紀後半から20世紀にかけて、アメリカ、イギリス、日本、チェコにおいて女性政治家が誕生するプロセス、女性政治家誕生を支えることになった女性運動、女子教育の発展について比較検討を行なった。 共著者：羽澄直子、石倉瑞恵、氏原陽子、木原貴子、遠山佳治、依岡道子
7. 大学における効果的な授業法の研究5—多様な学習成果の評価方法の開発—（機関研究中間報告）	共著	平成24年5月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第6号、pp.59-60	大学における多様な評価方法を開発するために、全学教員を対象として実施した学習成果の評価方法に関するアンケート調査に基づいて、プロセス評価の現状と課題を分析した。 共著者：遠山佳治、石倉瑞恵、神山久美、白井靖敏、羽澄直子、原田妙子、幸順子 共同研究につき、担当部分抽出不可能
8. 創立者越原春子および女子教育に関する研究（平成23年度～平成24年度機関研究中間報告）	共著	平成25年5月	名古屋女子大学編『総合科学研究』第7号、pp.61-68（担当部分p.62）	「チェコスロバキアにおける制度的男女平等と終わりなき意識改革」 第一共和国憲法において男女の平等が明文化された後の女性運動の必要性と方向性について分析し、その後の女性運動が男女を対象とした意識改革へと発展したことを指摘した。 共著者：羽澄直子、石倉瑞恵、氏原陽子、木原貴子、遠山佳治、吉田文、依岡道子

